

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	111	実施計画番号	54
事務事業名	郷土館事業の充実		
個別事業名		事業開始年度	昭和47年度
担当課名	スポーツ・生涯学習課	事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等		関連事務事業	
背景や経緯等	昭和44年2月から市民の全面的な協力により資料を収集し、昭和47年6月3日に旧軍馬補充部三本木支部の建物を改良し開館。平成24年度に旧十和田湖高齢者福祉センターに移転。		
事務事業の目的	博物館資料の収集・保管・展示及び調査研究をするとともに、郷土の歴史及び文化を深く理解してもらう。		
実施状況	常設展示及び企画展、特別展、小学校などへ収集資料を持参し郷土学習を行う「移動郷土館」を実施。		

【人件費の推移】

		23年度実績	24年度実績	25年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	243	243	243
	人件費(千円)	8,748	8,748	8,748
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

		23年度実績	24年度実績	25年度計画
事業費合計(千円)		2,304	8,231	4,901
うち一般財源		2,304	7,299	3,969
うち国県支出金				
うち地方債				
うちその他			932	932

【指標】

活動指標	活動指標名①	移動郷土館実施校数				
	計算式等	単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画	
		校	13	7	10	
	活動指標名②	企画展回数				
	計算式等	単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画	
		回	1		1	
成果指標	成果指標名①	来館者数				
	計算式等	単位	23年度	24年度	25年度	
		人	目標値	4,000	4,000	2,000
			実績値	4,070	2,571	
			達成度(%)	102%	64%	
	成果指標名②	企画展来館者数				
	計算式等	単位	23年度	24年度	25年度	
		人	目標値	600		2,000
			実績値	683		2,114
		達成度(%)	114%		106%	

十和田市事務事業評価シート

整理No	111
計画No	54

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由	
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 / 4 市民や市内各小中学校の郷土学習の場として広く活用されており、妥当性は高いものと思われる。	
	② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2			
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	5	成果向上の余地 1 / 6 平成24年度は移転の影響で、来館者が落ち込んでしまったため、広報活動等を積極的に行っていく必要がある。	
	④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1			
	⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	コスト削減の余地 0 / 6 事業については事業の精査を行い、必要最小限の費用で施設管理や事業等を実施しており、効率性は高いものと思われる。	
	⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
	⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 0 / 4 公平性は保たれている。	
	⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
現在の適性					19 / 20	改善の余地	1 / 20

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **19** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **1** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の平成25年度の方向性(選択) ⇒ **現状のまま継続**

方向性の理由
市民や各小中学校、その他研究機関へ郷土の歴史と文化を広める事業であり、予算の範囲内で現状のまま継続したい。
今後の具体的な取組み方策と狙う効果
企画展等を通じて、来館者が増えるよう広く周知していきたい。